

第36回 複合材料セミナー

サステナブルな素材、炭素繊維

数ある素材の中で、炭素繊維はその軽くて強い、耐熱性に優れるといった特性に代表される様々な特長を生かし、航空機用途を始め、スポーツ用途・産業用途など着実にその用途を広げてきました。

今年で36回目となる複合材料セミナーでは、炭素繊維メーカーによるPAN系・ピッチ系炭素繊維の最新技術・市場動向に加え、カーボンニュートラルな社会に向けて業界が取り組むべき方向性についてまとめた「炭素繊維サステナビリティビジョン2050」をご紹介します。また炭素繊維のリサイクル、航空宇宙、経済安全保障に関するプログラムもご用意しました。

炭素繊維複合材料の『今』を知ることができる本セミナーへの多数のご参加をお待ちしております。

■ 日時：2023年2月17日（金） 10：00～17：25 （開場 9：30）

■ 方法：ウェブセミナー（Zoom使用予定）併用のハイブリッド方式

会場：コンファレンススクエアエムプラス（M+）

東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル10F

※会場でのご参加は定員制（先着順）のため、ご希望に添えない場合があります。

※ウェブセミナーご参加者は、アクセス先を開催数日前に別途メールでご連絡します。

■ 参加費 1名につき（※会場参加者には昼食をご用意します。）

一般	20,000 円
官公庁・学校関係者	15,000 円
学生	3,000 円

■ 申込方法 炭素繊維協会のホームページから参加申込みができます。

<http://www.carbonfiber.gr.jp/>

■ 支払方法：参加受付後、事務局から請求書を送付します。

振込手数料はご負担ください。

振込後のキャンセルによる返金はできません。

■ 主催：日本化学繊維協会炭素繊維協会委員会

協賛予定（50音順）：（一社）強化プラスチック協会、（一社）繊維学会、先端材料技術協会、

（一財）素形材センター、炭素材料学会、（公社）日本材料学会、（公社）日本セラミックス協会、

（一社）日本複合材料学会

■ お問い合わせ 複合材料セミナー事務局

日本化学繊維協会 炭素繊維協会委員会

TEL 03-3241-2313 FAX 03-3246-0823

「第 36 回 複合材料セミナープログラム」

主催者 開会ご挨拶

-----[10:00~10:05]

1. PAN系炭素繊維の現状と将来

-----[10:05~10:50]

世界的な地球環境問題への関心の高まりに伴い、炭素繊維の担う役割は益々重要となっており、炭素繊維の軽くて強い特徴を活かし、航空機や風力発電、燃料電池車などへの展開が進んでいる。本講演ではその市場や用途の観点から、PAN 系炭素繊維の現状と将来展望について紹介する。

東レ株式会社
トレカ部門長
溝淵 誠 氏

2. ピッチ系炭素繊維の現状と将来

-----[10:50~11:35]

コールタールピッチや石油ピッチを原料とするピッチ系炭素繊維は、繊維結晶構造の違いで低弾性から高弾性(炭素質から黒鉛質)までの様々な特徴、機能を発揮する事が出来、それぞれの特徴が活かされた分野で社会に貢献している。本講演では、ピッチ系炭素繊維の特格的な物性発現の理由を解説し、その用途展開を紹介する。

三菱ケミカル株式会社
アドバンスソリューションズ
ビジネスグループ
アドバンスマテリアルズ本部
炭素繊維事業部長
安齊 政夫 氏

3. 経済安全保障と炭素繊維

-----[11:35~12:20]

国際情勢の複雑化、社会経済構造の変化等により、安全保障の裾野が経済分野に急速に拡大する中、国家・国民の安全を経済面から確保するための「経済安全保障推進法」が昨年成立した。この法律の下、炭素繊維についても、日本に強く安定供給の役割が求められる重要な素材として位置づけられている。炭素繊維を中心に、政策の概要を解説する。

経済産業省製造産業局
素材産業課革新素材室
室長
金井 伸輔 氏

昼 食 休 憩

-----[12:20~13:20]

4. 炭素繊維サステナビリティビジョン 2050

-----[13:20~14:05]

炭素繊維協会では炭素繊維が顧客使用段階で CO2 排出量を削減するサステナブルな素材であることを、LCA 活動やリサイクル実証研究を通じて発信してきた。政府の 2050 年カーボンニュートラル目標を受け、もう一段の環境負荷低減対策として炭素繊維業界が目指すべき方向性について長期的な見通しをビジョンにまとめたので紹介する。

炭素繊維協会委員会 技術委員長
(三菱ケミカル株式会社)
畑 昌宏 氏

5. CFRP 適正処理研究コンソーシアムで推進してきたことのご紹介

-----[14:05~14:50]

CFRP 適正処理研究コンソーシアムは、自動車の CFRP 適用拡大に備えて適正な CFRP 処理方法を構築するための調査研究をまとめた。難燃性と目されている CF の基礎燃焼特性をラボ試験で把握し、CF 燃焼マップと燃焼速度式を導出した。また、実際の ASR 処理炉を模した実証炉を製作し、90% 以上の CF 燃焼を確認した。これらの結果を広く世の中に開示することで、廃 CFRP の燃焼処理が多くの処理施設で実施可能となることを期待したい。

(一社) 日本自動車工業会
環境技術・政策委員会
リサイクル・廃棄物部会副部会長
(本田技研工業株式会社)
堂坂 健児 氏

休 憩

-----[14:50~15:05]

6. 宇宙ビジネスの新潮流と日本の可能性 ※録画講演

-----[15:05~15:50]

アポロ計画、スペースシャトル、国際宇宙ステーションなど、これまで限られた国の政府機関がリードしてきた宇宙業界が大変革期にある。宇宙機関を有する国・地域はすでに 60 を超え、スタートアップ企業や従来宇宙と関わりの薄かったあらゆる業種の企業が参入。2040 年にむけて市場規模は 100 兆円に達するとの予測もあり、宇宙は世界のビッグトレンドになりつつある。本講演では宇宙ビジネスの最前線をご紹介します。

一般社団法人 SPACETIDE
共同設立者 代表理事 兼 CEO
石田 真康 氏

7. Building the Future of Aerospace Together

-----[15:50~17:20]

The aerospace industry has a robust future. Emerging from the Covid-19 pandemic, air travel has proven yet again to be resilient. In its latest Commercial Market Outlook, Boeing forecasts the world's airlines will need more than 41,000 new airplanes over the next 20 years – for fleet growth and to replace older airplanes with newer, more efficient models – in order to meet growing demand. But the industry has to overcome significant challenges to make air travel affordable and sustainable. Mr Shaffer will address the aerospace industry's efforts to reach its zero-climate impact goal, and the key role that carbon composite materials and the digitization of the manufacturing process have to play.

ボーイングジャパン株式会社
社長
William Shaffer 氏

※逐次通訳

主催者 閉会ご挨拶

-----[17:20~17:25]